

【構築解説】

メガカメックス+「おいかぜ」ファイアロー+モロバレルを基軸とした構築については以前から思索しており、ファイアロー以外の「おいかぜ」役として何か適役がないか模索していた。「おいかぜ」役に求めたい性能としてはやはり、水耐性持ちに対する打点であり、ファイアローは草への有効打を持てる点で相性が良いのだが、これでは対水が怪しくなる。特に、メガカメックスの主力技すべてに耐性を持つマリルリが鬼門だ。

そこで、第一に、サンダーは相性が良いのではないかと考えた。水に対して電気で弱点を取れる上、「ねっふう」により草への打点も持つことができる。そして、思索する最中に、ちょうど大会でメガカメックス+「おいかぜ」サンダーが結果を出したのを見かけた。その構築は、『とつげきチョッキ』ランドロス霊の後攻「とんぼがえり」からカメックスを出し、隣のサンダーが「おいかぜ」をすることで、《おいかぜ》下でメガカメックスを展開できるというものだ。この戦術には有用性が認められたので、私も同様の戦術を使用してみることにした。

ところが、大きな問題が発生する。それは、サンダー+ランドロス霊の並びがあまりにも低速であることだ。特に、上からの「いわなだれ」に弱い点が致命的だ。というのも、先述の「おいかぜ」+「とんぼがえり」戦術は、2体が同時に動くことを前提としており、上からの「いわなだれ」で一方が怯んだ瞬間に崩れてしまう。これでは話にならない。しかも、「おいかぜ」同士がぶつかった際、素早さが低い方が不利になるのは明白であり、その点でも低速のサンダー+ランドロス霊の弱さが目立った。それに、ランドロス霊の対水ロトム性能の低さも気に食わない。メガカメックス、ファイアローとそもそもにして水ロトムが重すぎるのに、そこにランドロス霊を採用すると、もうどうしようもない。「いかりのこな」に従事したいモロバレルに対水ロトムを任せ切るのはあまりにも不安が大きすぎる内容である。これらの問題から、一夜にして雑魚認定を下した。

さて、これらの問題を解消するにあたって、「おいかぜ」役としては（少なくともガブリアスより）素早い駒が必要不可欠であると断定した。その上で、水耐性のうち、ファイアローで弱点を突けない水やドラゴンに対して優位な駒として注目したのが、ラティオスである。多くのドラゴンに先手を打てる上、対水ロトム性能も優秀で、「いやしのはどう」で「ふいうち」を避けながらメガカメックスの補助が行える点が魅力的に思えたため、確定。

しかし、ラティオスは対水ロトムで優秀であるものの、水への有効打を持っているわけではなく、特に対マリルリは未解決である。また、ガルーラ+スイクンのような形で、「おいかぜ」下でメガガルーラを展開してくる相手に対抗する駒が欲しいとも考えた。そこで、残りをレントラーとコバルオンとした。

まずレントラーは、特性 {いかく} の電気タイプで対ファイアロー性能が非常に高い、言わずと知れた強ポケであり、水への打点が欲しいという要請や、{いかく} 要員が居ないという現状、《おいかぜ》下でも構わず先制攻撃を仕掛けてくるファイアローに対する抑止力となる点等から暫定構築と抜群に相性が良く、その上「ボルトチェンジ」による並びの制御が行えるため、擬似的に先述のランドロス霊のような動きが可能となっている。使い勝手の良さは折り紙付きで、ランドロス霊とは比べ物にならない程扱い易い。文句無しの採用である。

コバルオンであるが、まず構築にノーマル耐性や岩耐性が欲しいという要請から鋼タイプが嵌るのだが、中でもメガガルーラより速くメガガルーラに有効打を持っている点を高く評価して採用している。また、リザードンよりも速く「ストーンエッジ」を撃てる点から、メガカメックスを使う上で苦手とし易いメガリザードンYに対し鋼でありながら優位を取り易いという性能も調和する。以上からコバルオンが最適と判断した。

【個別解説】

・ファイアロー

【いじっぱり】『こだわりハチマキ』ファイアローに縛られては元も子もないので、「おいかぜ」役のファイアローは【ようき】AS1択。《おいかぜ》下においては「ふいうち」や【いたざらごころ】「でんじは」などの先制技を防ぎたいため、「ファストガード」を搭載。